

## オーストラリア研修 5日目（3月11日）

日中は、Southern Cross University National Marine Science での実習だった。午前中は、青空の下、サーフィンに最適な白くて大きな波が映える砂浜での実習だった。4人ほどのグループに分かれて、30cm 四方くらいの方形枠内の砂を深さ20cm くらいまでシャベルで掘り、大きなざるの中にその砂を入れて波打ち際まで運び、砂を流し落として、ざるに残った生物の種類と数を調べた。環形動物が多かったが、小さなエビの仲間もいた。黒い眼がつぶらでかわいかった。波打ち際の方が生物の数が多かったのは、波打ち際から離れている場所よりも水分が多いからだ



教えてくれた。また、砂浜の様々な所に、直径5mm くらいの砂の球がたくさんあった。これは、小さなカニが穴を掘った時にできたものだとバディが教えてくれた。カーブがかかったはさみで砂を掘るので、球状になるそうだ。



昼食は、駐車場横の芝生で食べた。食べていると藪から七面鳥の仲間の「ヤブツカツクリ」が出てきた。パンを少しちぎって投げると喜んで食べていた。この鳥はわりとどこにでもいるのか、昨日の夕方、真野先生が散歩中に民家の庭先で見かけたそうだ。



午後は、その大学の水族館と実験室での研修だった。水族館に

は温暖な海に生息する魚やサンゴ、イソギンチャクなどが展示されていた。ウニやナマコ、サメの卵を触るコーナーもあり、ナマコはぬるぬるしているし、肛門からいきなり海水を出すので触るのに勇気がいった。海水が酸性化する仕組みの展示もあり、大気中の二酸化炭素濃度の上昇は、地球温暖化だ



けではなく、海水の酸性化という問題もあると改めて実感した。



その後、実験室に移動し、受精卵の初期発生の講義と受精卵などの観察をした。時間の都合で、私たちは受精卵かせいぜい



4細胞期までしか見られなかったが、もっと発生が進んだ胚も見なかった。

学校に戻ってから明日の中部ウェーブやダンスの出し物の練習後、アボリジニが大切にしているマトンバード島へ行っ

た。この島には街灯がなく、運よく月が出ていなかったの、暗くなってくると満点の星が見えた。日本では、オリオン座の左下にシリウスがあるのにここで



は右下にあり、しかもオリオン座は北に見えるし形も日本と違っていた。天の川は水平線か

ら反対側の水平線まで弧を描いて見え、南十字星も見えた。そのうち、様々な場所からマトンバードのヒナの声が聞こえてきて、親鳥が飛ぶ影も見えてきた。鳥の眼に優しい赤い光で探していると、草陰を歩く親鳥に出会うことができた。運がいい人はヒナも見ることができた。



今日は様々な貴重な体験をいくつもできて、なかなか興奮が冷めやまない。ホストファミリーに話したいことが山のようにできた一日だった。